

月 旬		11		12		1			2			3			4			5			6																											
		下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上																													
生育経過	80	品種特性表																			収穫期の水分と適切な収穫法																											
	60	900	<table><tr><th>種類</th><th>品 種 名</th><th>出穂期</th><th>成熟期</th><th>稈長</th><th>穂長</th><th>mi穂当り数</th><th>耐倒伏性</th><th>a子当り重</th></tr><tr><td>小</td><td>シロガネコムギ</td><td>4.10</td><td>5.28</td><td>80</td><td>8.1</td><td>556</td><td>極強</td><td>53.2</td></tr><tr><td>麦</td><td>ミナミノカオリ</td><td>4.14</td><td>6.3</td><td>84</td><td>7.7</td><td>507</td><td>強</td><td>46.6</td></tr></table>																			種類	品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	mi穂当り数	耐倒伏性	a子当り重	小	シロガネコムギ	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	53.2	麦	ミナミノカオリ	4.14	6.3	84	7.7	507	強	46.6
	種類	品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	mi穂当り数	耐倒伏性	a子当り重																																							
	小	シロガネコムギ	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	53.2																																							
麦	ミナミノカオリ	4.14	6.3	84	7.7	507	強	46.6																																								
40	700																																															
20	500																																															
草丈 (cm)	茎数 (本/m)																				成熟期																											
		播種適期		米 養 生 長 期 間										幼 穂 伸 長 期 間					登 熟 期 間																													
主な作業	麦踏み																				収 穫																											
	土入れ																																															
●排水対策 ●優良種子の準備 ●基肥散布 ●除草剤散布 ●種子消毒 ●農薬(石灰) ●アミダ ●ミネラル ※播種覆土後は土壌が湿潤な場合を除き、出芽・除草効果を高めるため鎮圧を実施する。 ●排水(排水) ●追肥 ●除草剤散布 ●土入れ(排水) ●土入れ(排水) ●土入れ(排水) 赤かび病防除1回目 (ミナミノカオリ) 穂揃期追肥 赤かび病防除2回目																																																

柳川の選ばれる 麦づくり運動

※実需者が求める品質の高い
麦づくりに努めよう!!

シロガネコムギ(日本種用)

- ・タンパク9.7%以上～11.3%以下
- ・灰分1.6%以下
- ・容積重840g/ℓ以上
- ・フローリングナンバー300以上

ミナミノカオリ(パン・中華種用)

- ・タンパク11.5%以上～14.0%以下
- ・灰分1.75%以下
- ・容積重833g/ℓ以上
- ・フローリングナンバー300以上

良質安定多収 8つの重点ポイント

- 1.湿 害 (排水) 対 策
(弾 丸 暗 渠 の 実 施)
- 2.地 力 増 強
(とれ 太 郎 ・アツミン・ミネラルG)
炭酸苦土石灰の散布
- 3.種 子 更 新
- 4.種 子 消 毒 の 徹 底
- 5.適 期 播 種
- 6.雑 草 防 除
- 7.赤 か び 病 防 除
- 8.異 品 種 の 混 入 防 止

地力増強(土づくり)

1.有機物の施用

稲わら:全量12～15cmの深さですき込む。
堆 肥:牛フン1～2tまたは、
アツミン40kg/10a施用。

2.土壌改良剤の施用

収量・品質の安定のために、ケイ酸質資材や
アルカリ資材を施用する。

ケイ酸補給:とれ太郎 60kg/10a施用。
PHの矯正:炭酸苦土石灰140～200kg/10a施用。
ミネラルG 140～200kg/10a施用。

赤かび病防除の徹底

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。特に、食品の安全性が問われる中で、かび毒であるデオキシニバレノール (DON) が取り沙汰され、農産物規格規程上、**赤カビ病被害粒混入限度0.0%**と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

近年目立つ雑草

〈カラスノエンドウ〉 〈カズノコグサ〉

4月に赤紫の小さな花が咲き、麦の収穫時期に3cm程の黒い莢を着ける蔓性のマメ科植物。

湿田に多く、春早くから茎が直立し、茎先に穂を出す。穂は熟すると黄色になる。

排水対策

①地下排水：有材暗きょ＋弾丸暗きょ
②表面排水：ほ場周囲＋畦間（枕地に溝を切り排水口に通す）
※麦は湿害に弱い。ため、ほ場の排水性が収量や品質に大きく影響を及ぼします。
降雨後の水がほ場には停滞しないよう排水溝の整備を行いましょう。

播種時期及び播種量

☆品質向上と安定生産のため、毎年、全量種子更新を行い、充実のよい種子を用いる。（10a当り）

種類	播種適期	播種量
小麦	11月20日～11月30日	シロガネコムギ 6～7kg
		ミナミノカオリ

前年度ヤギシロトビムシの被害を受けた圃場では、播種適期の範囲内でなるべく早く播種する。
※晩播限界 12月15日
注意）晩播対策：播種量を20～40％増量する。
大豆 後：播種量を20％減らす。

種子消毒

薬剤名	対象病害虫	処理方法
ベンレートTコート	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	種子10kgに薬剤50gを粉衣する。
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを粉衣する。
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ（多発田）	種子10kgに薬剤60mを塗布する。

※ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤は混用できる。
※ヤギシロトビムシ多発田では、ベンレートTコートとクルーザーFS30を混用する。

施肥基準

品 種 名	基 肥	一 発 追 肥 （1月下旬）		穂摘期追肥 出穂10日後頃
	ちくごのめくみ444	麦追肥1号	硬質小麦用追肥3004	硫 安
成分(N-P-K)	14-14-14	24-0-5	30-0-4	21-0-0
水稲後	シロガネコムギ	40kg	40kg	—
	ミナミノカオリ	40kg	—	40kg
大豆後	シロガネコムギ	30kg	30kg	—
	ミナミノカオリ	20kg	—	30kg

※穂摘期追肥を尿素の葉面散布で行う場合は、開花期に実施します。
（5kg/100ℓ/10a×1回で硫安10kg/10aに相当）
高温時に尿素葉面散布を行うと、葉焼け程度が激しくなる場合がある。
尿素の濃度が高いと葉焼けの程度が激しくなる場合がある。

病害虫防除

品 種	防 除 適 期	薬 剤		10a 使用量
シロコガネコムギ	※開花期 （出穂後 7～10日）	粉 剤	トップジンM 粉剤DL	4kg
ミナミノカオリ	1回目： 開花期（出穂後7～10日） 2回目： 1回目の5～7日後	液 剤	トップジンM 水和剤	1000倍 水100ℓ

※開花期に降雨が続く場合、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回目防除（1回目防除の5～7日後）を行います。

麦 踏 み

12月下旬～2月下旬（本葉3枚頃～節間伸長開始）にかけて分げつ促進と徒長防止のために3～5回を目途に行う。
土が乾燥し、茎葉に霜や露がない条件で実施する。
茎立期以降は麦踏みはしない。

除 草 基 準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （広葉雑草2～4葉期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖ （水100L）	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	・ 幹土、整地は丁寧に！覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・ 土壌がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることがある。 ・ まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～発生前期）	4～5kg	・ 土壌が乾燥している時には、効果が遅れる場合がある。 ・ 本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。（どちらか1回のみ）
	ハーモニー75DF水和剤		麦1葉期～節間伸長前 （スズメノテッポウ5葉期まで）	5～10g （水100L）	・ カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草 やエムクラ	節間伸長開始期まで （雑草生育初期）	50～100㎖ （水100L）	・ 効果の発現が早く、低温条件でも効果的である。 ・ 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育に影響はない。 ・ 茎立期以降は、白斑、白点が悪化に発生するので使用しない。
	アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで （雑草生育初期）	100～200㎖ （水70～100L）	・ 高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期 （雑草の3～6葉期） 収穫45日前まで	100～200㎖ （水70～100L）	・ キンポウゲ類に効果が高い。 ・ 低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間浸漬させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

土 入 れ

1月上旬～中旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 （希釈水量）	使 用 上 の 注 意
土 壌 処 理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播		

水和剤を散布し、中耕・土入れを徹底する。

令和2年産麦栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

品種名 作付面積		11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
シロガネコムギ	主 な 作 業	弾丸暗渠 ／～日	種子消毒 ／～日	播種・基肥 ／～日		麦ふみ ／～日		土入れ ／～日	麦ふみ ／～日	土入れ ／～日	麦ふみ ／～日		土入れ ／～日				赤かび防除(1回目)			赤かび防除(2回目)			収穫		
	a	土壌改良資材 ／～日		雑草防除 ／～日		雑草防除 ／～日		雑草防除 ／～日	追肥 ／～日	雑草防除 ／～日							／～日			／～日			／～日		
ミナミカオリ	主 な 作 業	弾丸暗渠 ／～日	種子消毒 ／～日	播種・基肥 ／～日		麦ふみ ／～日		土入れ ／～日	麦ふみ ／～日	土入れ ／～日	麦ふみ ／～日		土入れ ／～日				赤かび防除(1回目)			赤かび防除(2回目)					
	a	土壌改良資材 ／～日		雑草防除 ／～日		雑草防除 ／～日		雑草防除 ／～日	追肥 ／～日	雑草防除 ／～日							穂肥 ／～日			／～日			収穫 ／～日		

★使用された資材・農薬に○と使用量を記入して下さい。(10a当たり)

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
種子更新	品種名 シロガネコムギ		kg
	品種名 ミナミカオリ		kg
土 壌 改良資材	アツミン		kg
	とれ太郎		kg
	炭酸苦土石灰		kg
	ミネラルG		kg
種子消毒	ベンレートTコート		g
	アドマイヤー水和剤		g
	キヒゲンR-2フロアブル		ml
	クルーザーFS30		ml

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
基 肥	ちくごのめぐみ444		kg
土 壌 処 理 剤	リベレーターフロアブル		ml
	リベレーターG(粒剤)		kg
茎 葉 処 理 剤	ハーモニー細粒剤F		kg
	ハーモニー75DF水和剤		g
	エコパートフロアブル		ml
	アクチノール乳剤		ml
	バサグラン液剤		ml

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
追 肥	麦追肥－発1号		kg
	硬質小麦用追肥3004		kg
	硫 安		kg
赤 か び 防 除	トップジンM水和剤		g
	トップジンM粉剤DL		kg
	トップジンMソル(JA無人ヘリ剤)		
	営農生産組合等委託		
	ワークアップ粉剤DL		kg
	ワークアップフロアブル		ml

※注意①:種子更新欄は、購入された品種と種子購入量を記入して下さい。
※注意②:資材・農薬名のない場合は、空白欄に使用された資材名・農薬名と使用量を記入して下さい。